

さまざまな社会インフラを整備 安全安心な暮らしを生み出す“地域の守り手”



高い技術力と、厚い信頼で 地域に不可欠な存在に

公共事業の削減などで、地方には存続の危機にある建設会社が少なくない。しかし山間部などで主要道路が被災した場合、地域の迅速なライフライン復旧に不可欠なのが、建設機械を保有し、専門の知識と技術を有する地元の企業だ。気候変動の深刻化によって、大規模な自然災害が多発している近年、地域の守り手が力を発揮する場面が増えている。

《高橋建設株式会社》は、土木・建設工事から水道、電気・通信関連工事まで、地域の生活に直結するさまざまな社会インフラを整備。住民の安心安全な暮らしを守り続けてきた。「創業者である父の口癖は『地域の声を聞かんといかん』。地元の方々に喜んでもらえることが一番の

やりがいです」。高橋宏聡社長(50)は使命感を帯びた表情を浮かべた。準大手セネコンの技術者だった高橋社長の父が1975年に創業した。当時、住宅用固定電話の普及が急速に進んでいて、宅内配線工事の需要は右肩上がり。関連する土木工事も増加しており、技術者は引つ張りだこだわった。事業が軌道に乗り始める

山はすぐに修繕して、安全性を確保する。地域の人に喜んでもらえる仕事をしようというのが、事業の大前提でした」と高橋社長。事業を特化し、強みを強調する企業が多い中、あえて逆の道を選んだ。事業をアウトソーシングしなかつたからこそ、可能になったのが災害など非常時のスピーディな対応だ。

ソードを紹介してくれた。深夜のトラック事故で電柱が折れた時に、連絡を受けた社員が直ちに駆け付け、修復作業だけでなく、散らばった車の破片掃除まで担ったという。「親父の顔が頭に浮かびました。お金をいただくためにだけに仕事をするのではなく、地域の人に喜んでもらうのがうちの、仕事です」



「人が社会を構成しているんだから、人の幸せは大事にしくちや。そんな会社が成長するんだと信じています」と笑顔を見せる高橋社長

思いだけではなく、高い技術力も当社の強みだ。90年代以降、総合評価落札方式が導入されるようになると、公共工事の受注も急増。2000年代初期にはISO9001やOHSAS18001といった国際規格を取得するなど早くからマネジメントシステムにも注力してきた。今後は新エネルギーや高齢者福祉、不動産関連事業などへの展開も考えている。事業内容の多角化が拡大しようとも、理念は変わらない。「地域の幸せ」だ。



働きやすい環境へのニーズは、一人一人違う。社員の意見を積極的に取り入れて、柔軟に対応している

と、次に注力したのが多角化だった。84年には砕石事務所、90年には給油所を開設。93年には産業廃棄物処分・収集運搬業も始めた。水道管工事や電柱設置作業なども担うなど、地域のインフラ全般をすべて直営で行ってきた。前社長が最も重視したのが、地域の幸せだ。「道路を造れば移動がスムーズになる。崩れた裏

「機材や車を他社に借りたりする必要がなく、すべて自社でまかなえますから」。天気予報などで被害が想定される場合には、万が一の準備態勢を取り、速やかなライフライン確保を目指している。地域の幸せを最優先に掲げてきた創業者の精神は、社員一人一人に浸透している。高橋社長があるエビ



高品質な工事や技術に加え、女性活躍や健康経営、ICT活用などの取り組みも高く評価され、社内には掲げきれないほどの表彰状が並ぶ



高橋建設 株式会社

業種 総合建設業

事業内容 土木工事・建築工事・産業廃棄物処理・採石・雑貨販売・ガソリンスタンド・環境衛生

創業 昭和50(1975)年5月1日

代表者 代表取締役 高橋 宏聡

社員数 109名(男88名 女21名)

〒699-3676

島根県益田市遠田町3815-1

TEL/0856-23-2344

https://www.takahashi-kensetu.com/

●山口営業所

●(株)島根興産

●平成道路(株)

●オリエンタル測量(株)

求める人材像 Check!!

- ものづくりが好きな人
- 目標に向けて努力できる人
- 思いやりがあり、ひとの為に仕事をしたい人(社会貢献)

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0856-23-2344

採用直通 E-mail

tomoko_takahashi@takahashi-kensetu.com

資料請求

公式サイトは
こちら

インターンシップ

会社見学



30年以上、女性技術者が活躍

いまだに男性の職場というイメージが根強く残る建設現場。しかし、高橋建設では30年以上前から女性技術者が在籍し、定年まで勤めあげた人もいる。「当時は「建設現場に女性が働くなんてありえない」と言われていた時代。でも親父は意にも介さず、やる気ある人材を登用していました」と高橋社長。育児休暇などの法整備すらなかったため、同社では女性社員から直接意見を聞き、働きやすい環境づくりを独自に進めていった。

現場でのトイレを男性と別に設け、作業服をリニューアルするなど細やかに対応。出産や育児で休暇が必要な場合は、個々にヒアリングして希望を聞き、復帰への道筋も作っていた。

資格取得をバックアップ

社員教育にも熱心だ。仕事に必要な資格の取得費用は、会社が全額負担。高卒で入社した新人社員が、給与を受け取りつつ専門学校に通ったケースもある。1級土木施工管理技士など難しい国家資格を取得した時

や、国土交通省の工事で局長表彰を得た際には多額の報奨金を出すなどしてモチベーションアップも図っている。給与面でも社員の意欲向上を促す。国土交通省が、総合評価落札方式で賞上げ企業への加算措置を取り入れる中、基準よりも大幅に多い5%のベースアップを全社員に実施した。

最先端のICT土木も早くから積極的に活用。2020年度には、建設現場の生産性向上に係る優れた取り組みを表彰する「i-Construction Award」を受賞し、国土交通大臣から表彰を受けた。高橋社長は、「ICTの活用は社員の働き方改革にもつながる。技術が進化する中、有効活用しない手はない」と話す。社員と地域を想って成長してきた高橋建設。今後も、地域の守り手として、存在感を強めていく。



1 官公庁からの受注も多く、各種施工実績を誇る。三隅・益田道路馬橋高架橋下部第3工事 2 益田市立桂平小学校校舎外改築工事(2020年2月竣工) 3 創業当時から社員の適性を生かした労働環境整備に注力。現場で活躍する女性技術者も多い 4 建設・土木工事の現場は一つとして同じものはない。実地でベテラン技術者から学びつつ、経験を重ねていく

ドローン操縦担当者として、第一線で活躍

きっかけは、何気なく目にしたニュース番組だった。テレビでは、高橋建設の女性技術者が紹介されていた。「土木って男性の職場と思っていたので驚き、次に興味を覚えました」。普通高校卒業後に入社。「当初は専門用語が分からなくて」と苦笑するが、先輩に基礎を習い、同僚の女性社員と切磋琢磨しながら、さまざまな工事に関わってきた。今夏には1級土木施工管理技士の学科試験に合格。実務経験を重ねたのち、実地試験に臨むのが次の目標だ。

4年前からドローン技術を学び始め、現在は操

縦担当者として各地の現場を走り回る。「従来現場事務所で図面や書類を扱う仕事が多かったのですが、今はドローンを手に山歩き。工事の進捗具合を実感でき、データに落としていく作業は楽しい」。現場では大型作業機械が動き回り、危険が伴う上、炎天下での作業は肌への影響も気になる。「日焼け止めクリームをしっかりと塗って、守っています」と笑顔を見せる。

道路の建設や維持、修繕には、細心の注意が求められる。自ら関わるようになり、何気なく走っていた道路に愛着を覚えるようになった。



管理部 前田 晴菜さん(25)
2015年入社(8年目)



入社と同時に専門学校に入り、知識や技術を習得

建設業界で働くには、さまざまな国家資格が不可欠だ。玉置さんは会社の制度を活用し、入社と同時に専門学校に入学。社員として在籍しながら2年間、基本給で学費や生活費を賄い、施工管理や設計、CADなどの知識や技術を学んだ。「勉強に集中でき、とても助かりました」

中学1年の時、実家周辺が甚大な豪雨災害に見舞われ、その後約3年に及ぶ復旧工事を間近に体感した。「川が氾濫し、道路が寸断されてめっちゃめっちゃに。そんな中、各地から駆けつけ、助け合いながら町を直していく人々の姿がとても格好良

くて。憧れた業界に入り、仕事の大変さと面白さを実感している。「壊れるのは一瞬だけど、造り上げるにはさまざまな作業が必要」と話す。

多くの機械や作業員が集まる現場では、段取りが重要になる。流れを先読みして、作業員に指示を出していく必要があるが、「大ベテランの方々に逆に習うことばかり」と苦笑する。実務に就いて約1年半。現場に出向くだけでなく、会社が勤める研修や講習会に参加して知識を学ぶことも少なくない。「毎日学びが多く、自分の成長を感じています」



管理部 玉置 優大さん(22)
2019年入社(4年目)



緻密な作業を積み重ね、道路やダムを造り出す

高校で環境土木を学び、2年生の時にインターンシップで出向いたのが高橋建設だった。3日間、現場でのトータルステーションを使った測量や土のう作りなどを経験。炎天下での作業は体にこたえたが、緻密な作業の積み重ねで道路を作っていく仕事に興味を覚えたという。

ダム造成工事の現場を経て、今年1月からは山陰道の一角である《三隅・益田道路岡見地区第5改良工事》に従事。山地を削り、掘り、土を盛って、できるだけカーブが少ない道を何層にも重ねて造り上げていく。中村さんの主な仕事は、雨天

時の水の流れ道となるコンクリート製水路の設置や、それに伴う測量、ブルドーザーやローラー、バックホーなどの機械を動かす作業員の誘導。ベテラン作業員とのコミュニケーションも欠かせない。日焼けして真っ黒な顔で、「会話が続くよう意識しています」と笑う。

建設業の醍醐味は、ゼロから形あるものを造り上げること。「現場が進むにつれて全く違うものに変わっていくのが面白いです」。在学中に小型車両系建設機械の操縦資格などを取得、現在は2級土木施工管理技士を目指し、勉強中だ。



管理部 中村 魁斗さん(20)
2021年入社(2年目)

